

## 第 16 号(2009.09.29 配信)

今年の夏はいかがお過ごしでしたか？ 夏休みは有効に活用されましたか？  
今は、彼岸も過ぎて秋の到来です。爽やかな季節を満喫したいものですね。

今回の「サロン便り」は、二本立てでお話を組みます。

まず、新型インフルエンザのこと。新聞・TV の見出しにならない「(新型)インフル」と略します。夏場も感染力の強さを見せつけ、本格的な流行はこれからといわれていますので。

後半は、真夏の総選挙のこと。自公政権が崩壊し、民主党主軸の連立政権が動き出しました。政治の話は、読者の皆さんの多様な政治意識にふれることでもあり、普段は避けたいのですが、昨年、アメリカのオバマ大統領勝利をめぐってお話しながら、日本での、これほど大きい政変に触れないわけにはいきません。事実を照らし必要な論評を記すことは、この「便り」の見識でもあろうと考え、投票結果や新内閣などの話をします。

新型インフルは、この春の初期には「豚インフル」といわれました。エジプト政府が対策として国内飼育の豚約 35 万頭を全て処分すると発表し、反発、騒動に至った話をご存じでしたか？ インフルエンザウイルスは、人に限らず、鳥や豚、馬など、多くの動物で感染するそうですが、豚インフルが豚の間で感染して呼吸器症状を起こしても、通常はヒトに感染しません。ところが、豚インフルのウイルス、鳥インフルのウイルス、ヒトインフルのウイルスの遺伝子が混ざり合い、数年前の鳥インフルと同様に、ヒトの間で感染するウイルスになったといわれます。変異した新型ウイルスですから、私たちは免疫力を持ちません。それが得体の知れない不気味さを感じさせる気がします。

しかも連日、新型インフルのニュースや解説のつど放映されるウイルスの映像(国立感染症研究所提供)。灰色でカビが生えたような「ケバケバ団子」とでもいうしかないウイルスの姿をさんざん見せつけられると、不気味さを増幅するようで「やめてほしい」と言いたいほど。肉眼では見えない「ケバケバ団子」より、おネエさんか若いおトウさんが、手首から手の甲や指先まで手洗いをしっかりやる模範映像を出す方がよほど有効、有益だと思っております。

新聞、TV、雑誌などの解説も多く、新型ウイルスについて私より詳しい方は大勢おいででしょう。また、医療関係者の方々は、ご専門の立場から、はるかに適切なお話をなさるでしょうが、素人である私が、ここで話したいのは、次の 3 点です。

第一に、「油断大敵」。これまでの経過で、新型インフルの患者の約 8 割は若年層で比較的軽症で済み、リスクが高く要注意なのは、心臓病、糖尿病など「基礎疾患」がある方といわれます。この現況から、自分は大丈夫だ、家族や周囲に患者はいない、新型インフルにはかかるまい、かかっても数日休めば軽く済むはず。そういう楽観的な見方、考え方は、実は私にもないとはいえない。それが油断を生みかねないと考えます。大勢の集団の中に入らない、不要・不急な外出を避け、特に群衆から距離をおく。インフルウイルスに襲われる危険は常にあります。油断は禁物です。警戒心を常時抱き、特に秋から冬にかけて通常のインフルエンザ流行シーズンですから、予防、対策に万全を期しましょう。ではどうするか。

第二、「予防は丹念に徹底して」。感染経路は「飛沫(ひまつ)感染」と「接触感染」が主です。飛沫は、患者のセキやクシャミから飛び散るウイルスを吸い込んで感染します。空気中に 2 メートルは飛ぶそうですから、それを避けるには、電車やバスの中で、勤め先や教室などで、まずは怪しげな(?)人に接する機会を遠ざける努力を欠かさないこと。「マスク」は周りに人が余りいなければ意

味がない。「マスク」はむしろ、患者(感染者)が周りに病菌を広げないように使う「セキ・エチケット」の効果が大きいといわれます。

「接触感染」は飛沫がついた机やドアノブ、吊り革などに触れ、手にウイルスが付着して感染の危険が生じます。その手で目や鼻、口を触ったりするとウイルスが体内に侵入するからです。心配でしたら、こまめに手をよく洗う、セッケンで指先まで丹念に洗う、念を入れて徹底すること、習慣づけることが大事です。

新聞に主な企業の対策事例が載っていました。「手洗い励行」は、どの企業も明示しています。ウガイの励行やマスクの配布もあり、マニュアル整備、出張自粛まで多様です。

第三は「禍(わざわい)を転じて」。私のささやかなトライアルをご紹介します、皆さんにも、予防と自衛の方策として「禍を転じ」る名案を期待します。

1 ヶ月ほど前の夕刻、JR 山手線に乗り込むと結構混んでいて、大柄な男性の背中に付く姿勢となり、ふと思い立ちました。車内には多数の吊り革がある。ドアの内側、座席のヨコ、中間部にも、随所に「手すり」が増えました。揺れたり急停車などの際に、つかまる棒です。しかし誰がつかんだか握ったか分からない、できるだけ「手すり」をつかまずに済むようトライしようと。揺れればオフィス・バックを持ち替えたり、足の位置、体の向きを変える。他のお客と向き合わないよう、ヨコか後ろに付くよう努めると、体全体のバランスを取るにも役立つという「実験結果」を得ました。座席に座れば幸い。立ち上がるにも手すりや吊り革を頼らず膝をうまく使ってスックと立つ。乗車・下車にも手すりに触れず、ウイルス付着の機会をなくす。「禍を転じて」試みた一種の「自立運動」です。バランス感覚育成にもなり一石二鳥！この「実験」「運動」は今も続行中です。ただし、決して無理はしないように。両手はいつでも、必要な際に使うことです。

次は、後半、自民党の歴史的な大敗、民主党圧勝の話です。何が「歴史的」かといえど...

自民党は、1955 年の結党以来ずっと第 1 党を続け、日本の政界を長年にわたり支配してきました。93 年に非自民の 8 党派が細川連立内閣を作り、すぐ翌年に自民が政権に戻って社会、さきがけ両党と組み村山政権ができました。ご記憶の方もあるはずですが、その一年半でさえ、首相は譲っても、自民党が第 1 党に変わりはありませんでした。

しかし今度の総選挙では、解散時の 300 議席から 3 分の 1 に近い、109 議席に転落し「自公政権」が崩壊、民主党が、単独過半数 309 議席も取って圧勝したのですから、日本の政治史上の大事件といって当然でしょう。与党内の内紛や分裂でなく、それを、投票 = 民意がやっつけた意義は重大です。

なぜ自民は大敗したのか。さまざまな議論や見方があり、遠因、近因が多々挙げられています。私は、自民党が発足し政界支配を続けてきた基盤、つまり、国際的には東西冷戦、国内では経済成長、右肩上がりという、党成立のファクターが、50 余年を経てとくに終わっているのに、旧来の安保優先、財界主導に依存し続けて発想の転換もせず、「自民党をブッ壊す」と高言した小泉・元首相のなすがまま、その後もズルズルと政権維持に固執してきた結果だと思えます。

議席より深刻なのは 109 議員の構成です。解散前と新議席を比べてみると、派閥の長老や多選

自民議席	選挙前	選挙後
議席総数	300	109
当選 7 回以上	56	38
当選 4 ~ 6 回	85	51
当選 2 ~ 3 回	76	25
当選 1 回	81	5

のベテランは、小選挙区で負けても比例区で残ったけれど、中堅から若手の当選 3 回以下の議員は、小泉チルドレンの総崩れもあり約 160 人から 30 人に激減しています。党の活力に響きかねず、世代交代論、党運営のあり方が危惧されます。(表は『朝日新聞』9 月 5 日朝刊から)

来年は参院選があります。今も参議院は民主が自民を109対82で上回り、改選数を考えても自民の逆転は不可能でしょう。これから4年、新連立政権が国民の目線で政治を進めていくことができれば、その間に自民に雲散霧消の恐れがあり得ないとは言い切れません。

民主党の話に切り換えましょう。「民主は勝ち過ぎじゃないか？」とよくいわれます。これが小選挙区制の“怖さ”だと思います。小選挙制全300区で民主の総得票は47.4%でしたが、その300議席の73.7%を占めます。自民は38.6%を取ったのに総議席数の21.3%に過ぎません(数字はいずれも主要新聞から)。4割余の得票で7割超の議席を取れば、「勝ち過ぎ」と感じられて当然です。マスメディアが「風」と呼ぶ「時の勢い」が高じると、どの選挙区も「勢い」が強い政党に投票が傾きがちです。1小選挙区の投票数が何百万票でも、1票でも多い方が勝ち。後は「死票」と化します。例えば中選挙区だと、定員=当選者が複数になり「死票」は減ります。今の制度は半ば意図的に「2大政党制」を目指して作られた経緯があり、ちとやそつとで変わりそうにない。今回の政権逆転でやっと二大政党制が実現したと「成果」を喜ぶ見方もありますが、果たしてそうだろうか。二大政党論は「幻想」ではないか。そんな思いがします。

鳩山内閣が発足して活発に動くのは、通称マニフェスト=選挙公約を早速実行に移し始めた初期段階ですから。この政権交代は、長年の政・官・財トライアングルに取って代わり、脱官僚を掲げて進行中。その状況や反応に関心を持って注視していこうと思います。

オバマ政権の発足時、アメリカの政界、マスメディアは「政権成立から100日間」は発進の動向を見ていくこと、批判や論評はその後だ、という姿勢を示しました。政権の交代から態勢をひとまず整えるまでを「100日間」とした見識を、肯定的に評価したものです。すると鳩山政権については、成立して100日、ほぼ年内いっぱい、注視が肝心でしょうか。

マスメディアの政治記者たちが、当面は、民主党の、特に2つのポイントに注目するよう教えてくれました。一つは「国家戦略局」という聞き慣れない“部署”を担当する菅・大臣(副総理。経済財政相兼務)の言動。民主党を鳩山首相と設立当初から支えてきた盟友とのこと。その言動は関心事です。二つめは、小沢幹事長の動き。自民党を離れて後、何かしら動き、あるいは壊し、独特の経歴と策略をもつ“スーパーパワー”の存在です。総選挙で小沢チルドレンと呼ばれる多数の新人の発掘から作戦指導に当たり、党内で最大の議員グループを擁します。今は幹事長として、来年の参院選を控え、国会運営をどう指導し、鳩山首相とどう協力していくか。注目どころです。

「二本立て」で長い「便り」になりました。ご質問やご注文はご遠慮なく。

(9月25日記。国際サブロー)